



なかしま たかひろ
監督・中嶋崇博さん(32)
菊池市泗水町出身、熊本市在住。熊本工業高校(野球部)を卒業後、平成14年度に入社。

3度目の国体出場で準優勝
ことしから監督を務める中嶋さんも、昨年の国体では外野手として出場していました。「国体は各県の選抜チームが出場するので本当に強い選手が集まります。その反面、普段は敵チームに所属する選手も補強に加わるためチームワークが重要。試合までにそれをベストな状態にすることを一番心掛けていました」と当時からチームの和を意識。大藪投手は、「3度目の出場となった昨年の国体。結果を残せて良かった反面、これからまだまだ頑張らなくちゃいけないと思います」と振り返ります。国体では全3試合を完投。1試合で100球前後を投げるといふハードな役割をこなしました。準決勝では、3点差のリードを最終回裏に2点返され、追い込まれたことも。「相手のチームのランナーで全ての塁が埋まり、長打を1本打たればサヨナラ負けという窮地。本当に危なかったです。でも、そのときは1球1球に集中して抑えることしか考えていませんでした。」

ハードな試合・仕事との両立
大会の多くは夏場行なわれます。炎天下の中、基本的には約2時間の試合を1日2回。事前練習も含めると10時間近くになるため、体力が必要です。大藪投手は、1試合を完投したのは昨年初めてでした。「体力的にはきつければ、投手としてしっかりしなければ」という自覚は出てきました。試合で嫌な負け方をしたり打ち込まれたりしたら「もういい」と投げ出しそうになることもありますが、リフレッシュしてまた「からやろうと思いき直します」中嶋監督も、「投げる回数が増え、自然と体力や筋力がついた」と大藪投手を評価します。



おおやぶ けいすけ
投手・大藪圭祐さん(24)
御船町出身、合志市在住。熊本工業高校(ソフトボール部)を卒業後、平成22年度に入社。

ピンチになったら、メンバーがマウンドに集まって声をかけてくれたので落ち着くことができました。試合では、自分たちのペースをつくるためにもみんなで声を出すことが大切。普段の練習から声を掛け合うことで、試合でも自然に声が出る。そういうチーム作りを心掛けています」と中嶋監督。

チーム一丸で国体準優勝 今できることに全力投球

この10年、多くの子どもたちが成長し、それぞれの夢や希望に向かって社会に羽ばたきました。ここでは、本市で活動している人や、本市から全国に飛び出した人の活躍を追い、その思いに迫ります。2015年の国わかやま国体ソフトボール成年男子では、御代志にある三菱電機株式会社のソフトボール部が躍進。私たちに大きな感動を与えてくれました。



1980年の創部以来、活躍を続ける三菱電機熊本ソフトボール部。近年では2012・13・15年の国体出場など、その活躍から目が離せない勢いのあるチームです。中央運動公園グラウンドで行なわれた今シーズン初めての練習を取材。中嶋崇博監督とエースの大藪圭祐投手にお話を聴きました。



1 今シーズン練習初日のウォーミングアップ
2 ティーバッティング
3 監督のノックで守備練習
4 互いに助言し合う選手たち
5 やかな雰囲気での良い選手たち
6 キャッチボールで肩慣らし
7
8

これからの目標
「チームとして、ことしの一番の目標は実業団の大会で全国ベスト4に入りメダルを取ることです」と大藪投手。この大会や国体も含め、多くの県予選は4月に行なわれます。1月のシーズンスタートから4月の予選まで、2〜3カ月で体をつくらなければなりません。「次

また、忘れてはならないのが、選手全員が仕事の合間に部活動を行なっているということです。「仕事あつてのソフトボール」選手たちは口々に言います。業務を第一にこなしながら練習に励む日々。全員が集まれる週2日程度の貴重な練習日を大事に使います。「楽しいだけじゃない」「二人一人が真剣だから続けられる」と和気あいあいとした練習風景にも、ソフトボールに対する選手一人一人のひたむきな思いが垣間見えました。

今できることを一生懸命
最後に、合志市の子どもたちへ。「今できることを一生懸命やる。常にチャレンジ精神を忘れないことが大事かなと思います。例えば、変化球は握りひとつで変化します。いろいろ試してみても自分に合う握り方を見つけ、それを磨いてほしいです」と大藪投手。中嶋監督は、「好きでやっていることについては、その気持ちをお忘れなさい。壁にあたったらぶち破れとよく言われますが、破れずとも別のルートを考えてまた同じ道に戻れる。遠回りしてもいい。ずっと好きでいるものが返ってくると信じて続けてほしいです」とメッセージを送りました。



2015 紀の国わかやま国体ソフトボール成年男子
●準々決勝
兵庫県 1-7 熊本県
●準決勝
熊本県 4-3 京都府
●決勝
愛知県 2-0 熊本県



国体で力投する大藪投手

三菱電機熊本ソフトボール部
部員は、監督を含めて20歳〜44歳の17人です。「20歳代の選手が多く、元気があふれる。チームワークはいいほうだと思います。雰囲気もいい」現在のチームについてそう話すのは、中嶋監督と大藪投手。部員たちは、三菱電機株式会社パワードバイス製作所熊本事業所とその関係会社の社員です。2交代勤務で、3日勤務して3日休みの繰り返し。普段の練習は、仕事が終わりの日を利用して12〜13人で行なっています。

2015年 国体準優勝
昨年の国体では、県予選を勝ち抜いた同部を母体として熊本県選抜チームがつくられました。登録選手12人のうち7人が同部の部員。他県からは日本リーグの選手も多数出場する中、県勢として過去最高となる準優勝に輝きました。

ユニフォームの鮮やかなレッドがトレードマーク
主将・西和馬さん(26)